

# 三島森田病院

## 第6回 ホスピタリティ コンサート

音楽療法として、言葉を介さず一流の音楽により、心と身体の調子を整え  
感動を体験することを目的としてコンサートを開催します

西本 夏生

Piano Concert

### Program

J.S.バッハ：主よ人の望みの喜びよ BWV147

L.v.ベートーヴェン：エリーゼのためにイ短調 WoO.59

ピアノソナタ第8番「悲愴」より第1楽章 Op.13-1

中田喜直：夕方のうた

吉松隆：子守歌

後藤丹：出さなかった絵はがき

徳山美奈子：序の舞～上村松園の絵に基づく～

モンポウ：『内なる印象』より「哀歌(嘆き)I-IV」「悲しい鳥」「秘密」

ファリヤ：火祭りの踊り

カプースチン：24の前奏曲Op.53より no.3、15、20、23、24



西本 夏生 / ピアノ

# 2024.4.9 (火)

開場 13:30 開演 14:00

三島市民文化会館

ゆうゆうホール 大ホール

**入場無料** 全席自由 事前申込等不要です

**入場対象者** 乳幼児を含めどなたでも入場できます

◎お問い合わせ先 三島森田病院 TEL：055-986-3337



■ 主催 三島森田病院 ■ 共催 三島市

## 三島森田病院の森田療法とは

森田療法は、東京慈恵会医科大学 精神科の初代教授であった森田正馬（もりたまさたけ）が100年前に創始した神経症（不安症・強迫症等）に対する日本発の精神療法であり、現在の当病院の理事長・院長 森田正哉はその曾孫にあたります。本療法は薬物によらず症状を「あるがまま」に受け入れることで健康な日常生活を回復させていきます。本療法では、神経症の根底にある不安や死の恐怖は自然な感情であり、より良く生きようとする人間本来の欲望（生の欲望）と表裏一体の関係にあるものと理解します。にもかかわらず神経症の患者さんは、自己の不安を排除することに努力を傾ける結果、かえって不安が増幅し症状にとらわれていきます。本療法の核心は、このようなとらわれを打破することであり、太陽の光を浴び土に勤しむ農業や工芸を通じて生活のリズムを取り戻し、患者さんが自己の不安も生の欲望も自然な人間性として受容し、「あるがまま」の自己を現実にかかしていかれるよう治療していきます。尚、当初は神経症が対象とされておりましたが、ストレスの多い現代社会において薬物療法では限界のある難治といわれる多彩な症状に対しても、病態によっては本療法の効果が確認されております。

### 出演者 Profile

#### 西本 夏生（にしもと なつき） ピアノ



北海道富良野市出身。早稲田大学卒、東京藝術大学大学院修了。スペイン・カタルーニャ高等音楽院、カステジョン高等音楽院の両修士課程修了。第1回サン・ジョヴァンニ・テアッティーノ国際ピアノコンクール第1位、2015年マルタ国際ピアノコンクール第2位、第15回ホセ・ロカ国際ピアノコンクール第3位等、数多くの賞を受賞。作曲家ニコライ・カプースチンと直接の交流を持った数少ない日本人ピアニストの一人であり、OP 145、OP 146の2曲を献呈されている。

ソリストとして東京フィルハーモニー交響楽団、大阪交響楽団等国内外のオーケストラとの共演を重ねており、2017年にはサルバドール・プロトンス指揮バルセロナ市ウィンドオーケストラとの共演でカプースチンの「ピアノ協奏曲第6番」ヨーロッパ初演を行い、現地で高く評価されている。

2020年初ソロ・アルバムとして世界初録音となる注目のスペインの作曲家パスカル・ヒメノの作品「演奏会用リズム・エチュード 第1集・第2集」(ALM)を制作し、クラシック音楽ながらJAZZ的要素のある鮮烈なピアニズムが注目され「レコード芸術」誌にて準特選盤に選出。2021年にはピアノデュオ piaNA 名義で「1122～カプースチン 4手のためのピアノ作品集～」(BRAVO Records)をリリースし、「レコード芸術」誌にて特選盤に選出。最近ではピアニスト青柳いづみことのCDアルバム「カプリス-気まぐれ-」(ALM)をリリースしている。音楽祭へも多数招聘されており、2022年には札幌にてパシフィック・ミュージック・フェスティバル (PMF) に、2023年にはスペインにて Pòdium Matadepera に出演。NHK-FM「リサイタル・パッシオ」等メディアへの出演も多く、国内外にてソロから室内楽まで幅広く活動を続けている。

Official web site : <http://www.2.furano.jp/natsuki/>